

怪談舞台 崇城大生が一役



熊本市中央区の桜の馬場城彩苑の歴史文化体験施設「湧々座」で、県内に伝わる怪談を上演する「熊本このわい話 湧々座おそろし御殿」が23日から始まる。崇城大芸術学部 of 学生らが舞台美術の一部を担当。「作品がどう生かされるか楽しみ」と話している。

夏休みイベントとして一昨年に続き2回目。県内の妖怪話や怪談を役者が演劇仕立てで上演する。演目は、熊本城を築城する加藤清正の前に妖狐が現れる「清正公と兄弟キツネ」など7本。

崇城大の学生による芸術協力も2度目。施設からの依頼を受け、学部内で希望者を募り、3人が選ばれた。

3年の兼廣業奈佳さんと福永佑乃さんは、阿蘇・高千穂に伝わる「鬼八」、人吉球磨地方の「山童」の背景画を担当。2年の藤井美沙希さんは妖怪のお面をデザインした。いずれも怖さよりかわいらしさを表現。「文献を調べ、忠実に再現しながら、子どもも楽しめるデザインにした」と3人。

ポスターを手掛け、学生の指導にも当たった小川剛准教授(36)は「仕事として取り組んだことで、学生には通常の課題以上に貴重な体験になったと思う」と話している。

上演は8月27日まで。毎週日曜の午前11時と午後3時から。1回に3本を上演。500円。湧々座☎096(288)5600。(酒森希)

自分がデザインした作品を持つ崇城大の学生と小川剛准教授(後列右)。手前は小川准教授が描いたポスター＝熊本市西区

湧々座「こわ〜い話」 お面、背景画をデザイン

2017年7月22日 熊本日日新聞 P.21